



当プレスニューズレターでは、東京文化発信プロジェクトの多様な事業を、さまざまな切り口からご紹介しています。

平成 22 年 7 月 30 日
東京文化発信プロジェクト室
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

CLOSE UP
INTERVIEW

『東京インプログレス』を展開する美術家・川俣正氏インタビュー

「東京スカイツリー」の対岸で行われる インターローカル・アートプロジェクトとは？

今年3年目を迎えた「東京文化発信プロジェクト」。今年度の新規事業として国内外から大きな注目を集めているのが、美術家・川俣正氏を迎えて始動した『東京インプログレス—隅田川からの眺め』だ。2011年に完成する「東京スカイツリー」の建設と連動し、変わりゆく東京を新たな側面から考えるプロジェクト。現在まさに進行形のプロジェクトの内容と目的、ユニークな創作プロセスなどについて川俣氏に語っていただいた。

外国人の目線から見た東京 スカイツリーと水辺の景観

28歳の若さでヴェネツィア・ビエンナーレの参加アーティストに選ばれ、その後も欧米を中心に高い評価を得ている川俣氏。パリ国立高等芸術学院教授に就任した現在は、フランスを拠点に創作活動を精力的に行っている。

「35年間いて東京はもういいや、と思って海外に出たとたん、“東京で何かやりませんか”という話を、それも東京都からご依頼いただく。それが不思議、というか非常に面白く感じたのが今回の出発点でした」

東京を離れた自分からみた東京という街。パリにいる自分が漠然と思い浮かべる東京の姿。

「いうならば“外国人の目線から見た東京”のイメージで、当プロジェクトに参画してみようと考えました」

川俣氏は近年、「ワーク・イン・プログレス」という創作方法に取り組んでいる。舞台芸術で創作中の作品を公開し、観客の反応をフィードバックしながら作品を練り上げていく手法だ。川俣氏は『東京インプログレス』を構想するにあたり、まず昨年度に、各研究分野で活躍する6人のゲストとの公開対談を実施。

「そこで東京の文化、歴史など多様なテーマで話し合った結果、浮上したキーワードが“水辺の景観”でした」

特に川俣氏が「東京という都市を象徴する水辺の景観」として注目したのが、2011年の完成に向けて建設中の東京スカイツリーによって大きな変貌をとげようとしている「隅田川からの眺め」だった。

最先端の技術で伸びる塔、 カナヅチで築かれる塔

「僕自身もパリから東京へ戻ったとき初めて間近で見て、あまりの巨大さに驚きました。下町の比較的小み小みした町並みの向こうに、圧倒的な存在感でスカイツリーがそびえ立つ。それは住民の意識が変わらざるをえないほど重要な景観の変化でしょう。しかし、その変化に対して、見る側が何もできない、何も関われないのはおかしいのでは、と感じました」

その疑問に対して起こすアクションの一つが、「ワーク・イン・プログレス」の手法を使って隅田川の河岸に“塔”を作っていくプロジェクトだ。第一弾は荒川区の都立汐入公園を会場にして計画が進行している。

「アーティストがどこかで作品を作ってポンと会場に設置しておしまい、というのではなく、ワークショップの段階から現場で住民の人たちと意見を交わし、一から“塔”を作っていきます」

かわまたただし

川俣 正

1953年生まれ。美術家。パリ国立高等芸術学院教授。パリに住み、欧米を中心に制作している。



その現場は、どんな人でも参加できる。

「家にあるカナヅチを持ってきてクギを打ってもいい。軒下かどこかに放り込んであった古い木材を張り付けてくだけでも構わない。寺院に瓦を寄進するときに自分の名前を書いたりするイメージで、たくさんの人が“塔”に関わってほしいと考えています」

最先端の技術を使って日々数メートルずつ高くなる東京スカイツリーに対し、地域の子供からお年寄りまでが自宅からクギや板を持ち寄り、2~4週間かけてコツコツ作り上げる“塔”。

「さらに“塔”には、そこへ登って周囲を“眺める”という役割があります」

東京スカイツリーが景観をどう変えたかを観察してもいい。塔の建つ公園周辺の町並みを眺め、地域の歴史を振り返ってみるのも面白いかもしれない。

「また隅田川の水辺は、防災のための護岸工事が優先され、景観としては非常にそっけないところがある。水辺が活用されていないのです」

そうしたコンクリートで固めた殺風景な姿を見つめ直し、「これからの東京の水辺はどうあるべきか」を皆で考えるきっかけになれば…と川俣さんは期待を寄せる。

水辺というキーワードで 世界と東京が響き合う

そして“塔”は、2012年に東京スカイツリーが電波塔として運営をスタートした後に撤去され、「消える」ことでプロジェクトが完了する構想。

「東京スカイツリーがいわばパーマネント（半永久的）に残る中で、隅田川の対岸にはこんな塔があったんだと誰かの記憶に残るだけで、僕は面白いと思う」

一過性である。“つねに変化している最中”＝“インプログレスである”、それが東京という都市の特性だということを強くアプローチすることにもなりそうだ。

また『東京インプログレス』では今後、第二弾・第三弾の塔を隅田川の水辺に作るプロジェクトを進めていく。同時に川俣氏はナントやアヴィニョン（フランス）、エッセン（ドイツ）、アブダビ（アラブ首長国連邦）といった世界の都市においても、都市における水辺との関わりを検証するプロジェクトを展開している。

「たとえばアヴィニョンの湿地帯では自然保護とツーリズムをいかに両立させるかという問いを、エッセンではかつて汚染されていた川の再生の歴史をいかに未来へ伝えて



『東京インプログレス』プロジェクトで汐入公園に設置する予定の“木造の塔”模型。背景は設置場所をイメージした立体地図。

いくかを、それぞれの水辺に作る“塔”からの眺めからアプローチしようと試みています」

ローカル（地域）としての個性があるからこそ、その魅力を世界に発信できる。『東京インプログレス』は、川俣氏が世界各地で展開する、近隣の地域との関係を紡ぐインターローカル・アートプロジェクトの一つとして世界のアートシーンから熱い注目を集めることになるだろう。

ピンクフラミンゴの飛来するアヴィニョンの自然保護地区に建つ“塔”と、かたや東京の下町で人々がカナヅチとクギで作り上げる“塔”が、同じアートの世界で認知され、鑑賞され、つながる。

「東京では地域の人への説明会などを通じて、どんどん新しいアイデアが生まれています。『東京インプログレス』が今後どんな展開をみせるか、僕自身、とても楽しみにしているところです」

●プロジェクト概要

『東京インプログレスー隅田川からの眺め』

都市東京を、水辺からの景観をキーワードにシンポジウム、ワークショップ等を通して再考するプロジェクト。

（プログラム内容）

『アーティスト・ワークショップ（仮）』

小学生を対象とした、塔の模型をみんなで組み立てることで、地域との関係性を生み出すワークショップ。その模型の一部は、最終的に塔の完成後、その中に設置予定。

場所／都立汐入公園（荒川区）ほか

日時／2010年10月～2011年3月を予定

『タワー・コンストラクション（仮）』

変わりゆく東京を定点観測する木造の塔を建設。

場所／都立汐入公園（荒川区）

日時／2011年1～3月を予定



東京の外国人が見る“東京文化”

今年度は、東京都の姉妹友好都市のある国の方々にお話を伺っていきます。

文化を通じて ファンタジーや創造力を届ける

アートや演劇、音楽といった幅広い芸術文化の拠点として知られるベルリン。ご自身もベルリン在住が長かったGoethe-Institut (ゲーテ・インスティトゥート)の文化部長、トルステン・アルベルツさんに、東京の文化について、そして文化発信を担う立場としてご自身が大切にされていることを伺いました。



Thorsten Albertz
トルステン・アルベルツ

ゲーテ・インスティトゥート 文化部長。ベルリンの大学で美術史を専攻した後、音楽大学で音楽とメディアのマネジメントを学ぶ。ニューヨークでのギャラリー経営を経て、昨年12月より現職。

古いものに重きを置く、日本の文化

——昨年末に来日されたばかりとの事ですが、東京の文化にはどのような印象をお持ちですか？

そうですね、まず、日本では伝統的な文化が「正統派」とか「きちんとしたもの」として捉えられている印象を受けました。逆に現代アートのような新しいものは、「一時的な文化」として受け止められている面もあるようですね。けれど、実際に日本の文化が海外でどのように受け入れられているかという、現代アートのほうが評価されている部分がある。例えば、能よりもマンガのほうが興味を持たれていたりします。

日本では、年配の人が敬われるように、年を重ねたものに価値が置かれていますよね。ですから、現代アートやマンガもさらに年月を経ることで、「正統な文化」として日本でも認められていくのではないかなと期待しています。

——ベルリンでは様々な文化事業が行われていますね。

実はベルリンは昔から経済や産業がなく、芸術文化のみで成り立っている、ドイツの中でも例外的な都市です。主要な企業はみな、フランクフルトなど他の都市にあります。一国の首都としては特殊な例でしょう。

皆さんにベルリンのイメージを尋ねると、「ベルリン国際映画祭」、コンテンポラリー・アートや演劇、音楽といった答えが挙がりますが、それら全てがベルリンそのもの。「ベルリンの壁」以外は、全て芸術文化なのです。

——ベルリンの人々にとってアートは身近な存在のようですね。

ベルリンは世界の大都市の中では比較的居住費や生活費が安く、あくせく働かずとも生活できます。そのため、世界中からアーティストが移住して創作活動を行っていますし、アーティストでなくとも、簡単な仕事をしながら片手間でギャラリーを運営することも可能です。実際、市内には小さなギャラリーがいくつもあって、そういう意味では、ベルリンには至るところにアートがあるといえます。東京は生活費が高いこともあり、ギャラリーを持ちたいと思っても、運営だけで精一杯という難しさがあるかもしれません。

文化提供の先に見据えていること

——アルベルツさんが、東京で自国文化を伝えていく意義とは？

私は、文化に携わる者として、いつも「なぜ文化ということをも皆さんへ提供するのか？」ということ意識しています。例えば、コンサートを提供するとしたら、その目的は何か？ よい音楽を聴いてもらうことだけでよいのだろうか？

私が目指していることは、単により音楽にふれる場を提供することだけではありません。そこに集った人々に感動だけでなく、ファンタジーや創造する力を与え、さらには、それまでの考え方を変えるような視野の転換といったような「余裕」を持ってもらうことが、一番大事な目的だと思っています。

——今秋から始まる「日独交流150周年」では、どのような取組みを予定されていますか？

ハイライトを挙げると、まずは、ベルリン在住の芸術家を紹介する展覧会。ベルリンで活躍しているドイツ国内外の芸術家の作品を見ていただけるチャンスです。また、モダンダンス公演や、著名なDJを招いてのワークショップなども行います。直近の独自企画としては、『VISIONEN (ビジョネン)』という演劇プロジェクトを立ち上げます。これは、ドイツ語圏の劇作家の戯曲を日本語訳し、日本の若手演出家や劇団に参加してもらう連続リーディング公演で、若手戯曲家の作品をリアルタイムで紹介することを目指しています。

最初に、日本の文化は伝統的なものに価値が置かれていると言いましたが、ドイツの文化もクラシックなもの認識されがちなので、こうしたイベントで若いドイツの文化を紹介するのも私の役目だと思っています。

『VISIONEN ドイツ同時代演劇リーディングシリーズ』

第1回『走れゴスロディン』

8月21日(土) ゲーテ・インスティトゥート

お問い合わせ先:ゲーテ・インスティトゥート www.goethe.de/japan

※「東京文化発信プロジェクト」では、ドイツ発の作品を含むキッズ向け事業を開催します。開催日時は、事業予定カレンダー(P.5)をご参照ください。

『TACT/FESTIVAL TOKYO』

『キンダー・フィルム・フェスティバル』

EVENT PICK UP

イベントピックアップ

FESTIVAL

東京発・伝統WA感動

伝統文化をもっと身近に、 楽しく体験できるプログラム

日本の伝統文化にふれる機会を提供する『東京発・伝統WA感動』。今年度は『伝統芸能公演』（8月～10月）に、『キッズ伝統芸能体験』（9月～3月）、『東京大茶会』（10月）が加わり、さらに多彩なラインナップで展開します。

『伝統芸能公演』は、江戸から東京へと受け継がれてきた日本独自の伝統芸能を紹介するプログラム。今年は、昔から生活や憩いの場として親しまれてきた「隅田川」をテーマに古典と新作を上演する能と邦楽『隅田の四季』や、子供も楽しめるワークショップ『邦楽ワンダーランド!』など6公演を開催します。一方、『キッズ伝統芸能体験』では、9月の開講式の後、子供たちが能楽（謡・仕舞、狂言、囃子）・日本舞踊・箏曲・長唄

（三味線、囃子）の各コースに分かれて、一流の芸術家の指導による7ヶ月間のお稽古を受けながら、来年3月の発表会に臨みます。また、茶文化と江戸・東京の文化に親しむイベント『東京大茶会2010』では、様々な流派の茶席、野点が催されるほか、親子や外国人を対象とする茶席も予定されています。



KIDS

ミュージック&リズムス TOKYO KIDS

楽器作りからチャレンジ! 子供の音楽ワークショップ

自然の中で、森のざわめきや水の音にふれながら、そこで得たインスピレーションを手作りの竹楽器を使って音楽に表現していく——。「自然の響きを体感しよう」をテーマに、ワークショップを中心に3段階構成で繰り広げられる『ミュージック&リズムス TOKYO KIDS』は、現在、参加者募集中（応募締め切りは8/9）。今年は、より多くの子供たちが参加できるように、会場を2か所から3か所に増やしての開催です。

8月中旬～9月初旬に行う「ステップ1」では、自然の音を感じ取るための野外学習と竹を使った楽器作りに挑戦。続く「ステップ2」では、鬼太鼓座やバンブーオーケストラといった一流音楽家たちをゲスト講師に、オリジナル曲の合奏練習。そして「ステップ3」では、9月25日（土）に公開リハーサルを、26日（日）に参加者全員によるコンサートを東京都庁前の都民広場で行います。プロの音楽家と共にオーケストラをつくりあげ、地球音楽・ワールドミュージックの祭典を披露します。



ARTPOINT

Tokyo Art Research Lab

「アートプロジェクト」を 研究するプロジェクト始動!

生活圏に潜む課題や可能性を分析・検証し、アートプロジェクトを持続可能にするシステムの構築を目指すプログラム。「つくる」「支える」「評価する」「伝える」「記録する」というフレームで講座が開かれ、アートに関わる活動・プロジェクトを生成するための「知」と「スキル」のプラットフォームを創ることを目指しています。

7月1日には、「つくる」人材を育成するためのゼミ『アートプロジェクトの0123（オイッチニーサン）』が開講。会場には、様々な視点からアートプロジェクトに関心を持つ受講者が集まりました。前半は、講師の小川希氏（一般社団法人TERATOTERA）の過去十数年のアートプロジェクト運営における経験の紹介、後半はコンセプチュアルアートの講義。受講生たち自身のアートプロジェクトを行うための準備体操が始まりました。



7月から来年春にかけて、6つの連続ゼミ・集中セミナーと、4つの公開講座が開催予定。合計約150名の受講者が、様々な切り口からアートにアプローチしていきます。

KIDS

TACT/FESTIVAL TOKYO
国際児童青少年芸術フェスティバル

世界の舞台を親子で 楽しめる夏の祭典

世界中から集まってきた最高水準の舞台を鑑賞したり、コンサートを聴いたり、ワークショップにも参加できる、親子一緒に楽しむ夏の祭典です。

舞台は、2人の打楽器奏者と2人のダンサーによるパフォーマンス『エコア』（フランス）、エリエゼと駅員の心温まる演劇『名無しのエリエゼ』（ドイツ）、ことばの通じない2人によるサバイバル・ドラマ『ロビンソン&クルーソー』（デンマーク）、特設テント内にて30人限定で観る探検演劇『ラヴァ』（ベルギー）、現実とファンタジーが交錯するライブインスタレーション『ひつじ』（カナダ）の5作品。8月8日には『エコア』のカンパニー・アルコスムによる、からだを



使ってリズムをつくって踊るワークショップ（要事前申込み）も開催される予定。

子供目線で演劇を観ることは、大人にも新鮮な驚きを与えてくれるはず。

開催日／2010年8月6日（金）～15日（日）

※9日（月）は休演日

会場／東京芸術劇場 小ホール1・小ホール2 他

料金／大人2,000円、子供1,000円

※『ひつじ』、ワークショップ等は無料

事業予定カレンダー 8月～9月 Program calendar Aug.-Sep.

	8月	9月
フェスティバル FESTIVAL	東京発・伝統WA感動 伝統芸能公演 Tokyo Traditional Arts Program 8/20～22 ワークショップ「邦楽ワンダーランド!」、 8/24 邦楽「芸の真髄」[清元～清き流れひと元～]、 8/31 能と邦楽「隅田(すだ)の四季」、 9/4 邦楽「俚奏楽(りそうがく)」、 9/25 天台声明「投華得仏(とうけとくぶつ)」/東京芸術劇場、国立劇場、水天宮ビット Aug.20-22 Workshop "Wonderland of Traditional Japanese Music" Aug.24 Traditional Japanese Music [Essence of Art] "Kiyomoto - Two pure streams into one fount -" Aug.31 Noh and Traditional Japanese Music "Four Seasons of SUDA" Sep.4 Traditional Japanese Music "Risogaku (shamisen music)" Sep.25 Tendai Shomyo Chant "TokeTokubutsu" Tokyo Metropolitan Art Space, National Theatre of Japan, Suitengu Pit	
	芸術監督セレクション Artistic Director's Selection 8/13～15 日・タイ共同制作 "Spicy, Sour, and Sweet" / 東京芸術劇場 Aug.13-15 "Spicy, Sour, and Sweet" Tokyo Metropolitan Art Space	ミュージック・ウィークス・イン・トーキョー 2010 Music Weeks in TOKYO 2010 【スーパー・コーラス・トーキョーお披露目イベント】9/3 めぐろパーシモンホール 【スーパー・コーラス・トーキョーデビューコンサート】10/9 東京国際フォーラム 10/11 パルテノン多摩 10/13 サントリーホール Sep.3 Super Chorus Tokyo first appearance event/Meguro Persimmon Hall Oct.9,11,13 Super Chorus Tokyo debut concert/Tokyo International Forum, Parthenon Tama, Suntory Hall
	東京都交響楽団ハーモニーツアー Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra Harmony Tour 8/28 東京芸術劇場、 9/19 日の出町公民館、 9/20 奥多摩町福祉会館、 9/25 檜原村やすらぎの里、 9/26 瑞穂町スカイホール Aug.28 Tokyo Metropolitan Art Space Sep.19-26 Tama area	
キッズ KIDS	パフォーマンスキッズ・トーキョー Performance Kids Tokyo 耕心館：ワークショップ 7/21～8/11 の期間内の9日間、発表 8/12 吉祥寺シアター：ワークショップ 7/23～8/6 の期間内の8日間、発表 8/7, 8 せんがわ劇場：ワークショップ 8/19～26 (8/22は除く)、発表 8/27, 28 Jul.- Aug. 3 culture halls in Tama area	
	TACT/FESTIVAL TOKYO 8/6～15 (8/9は休演日) 東京芸術劇場 Aug.6-8,10-15 Tokyo Metropolitan Art Space	ミュージック&リズムス TOKYO KIDS Music & Rhythms TOKYO KIDS 【ワークショップ】8/21～9/20 都内3か所 【発表コンサート】9/26 東京都庁前都民広場 Aug.21-Sep.20 Workshops/3 places in Tokyo Sep.26 Concert/Tomin Hiroba
	キンダー・フィルム・フェスティバル Kinder Film Festival 8/10 青山劇場、 8/19～22 調布市文化会館たづくり Aug.10 Aoyama Theatre Aug.19-22 Chofu City Cultural Hall Tadukuri	東京 JAZZ MUSIC SCHOOL 綾戸智恵 Jazz for Kids TOKYO JAZZ MUSIC SCHOOL 9/4 公開ワークショップ 東京国際フォーラム 地上広場特設ステージ Sep.4 Open Workshop Tokyo International Forum
		東京文化会館 青少年のための舞台芸術体験プログラム Tokyo Bunka Kaikan Open Rehearsal for Students 9/8 英国ロイヤル・オペラ「マノン」 Sep.8 "Manon" by The Royal Opera
アートポイント ARTPOINT	墨東まち見世 2010 BOKUTO MACHIMISE 2010 8/1 墨田区在住アトレウス家、 9月中旬 墨東まち見世塾 Aug.1 The House of Atreus, Sumida-ku, Tokyo Sep. BOKUTO MACHIMISE JUKU	
	TERATOTERA 9/8～11 途中下車の旅 停車駅：吉祥寺/Art Center Ongoing Sep.8-11 Stopover Tour Kichijoji/Art Center Ongoing	
	Tokyo Art Research Lab 公開講座+連続講座一般公開+集中合宿セミナー Tokyo Art Research Lab (Human Resources Program) 8/19 アート活動としてのアーカイブ ゲスト：上崎千、 8/24 世界の現場からTalk&Cast Vol.3 wah in オランダ、 8/25 帆足亜紀ゼミ プロジェクト運営ぐるっと360度、 8/26 小川希ゼミ アートプロジェクトの0123 ゲスト：志村信裕 9/18～ Tokyo Art School 2010、 9/18, 19 集中合宿セミナー1「お金と法律の基礎知識」 アーツ千代田3331 Tokyo Artpoint Project Room 302ほか 3331 Arts Chiyoda	イザ!カエルキャラバン! in 東京 IZA! Kaeru Caravan! in Tokyo 9/26 vol.2 一むさしのぼうさいカフェ Sep.26 vol.2-Musashino Bosai Cafe
	Insideout/Tokyo Project 8/7～29 展示/アーツ千代田3331 Room206 Aug.7-29 Exhibition/3331 Arts Chiyoda	岸井大輔プロジェクト「東京の条件 2010」 Kishii Daisuke Project THE TOKYO CONDITION 8/29, 9/25 会議体 総会/アーツ千代田3331 Tokyo Artpoint Project Room 302 Aug.29-Sep. General Meeting/3331 Arts Chiyoda
	アーティスト・イン・児童館 Artists in Jidokan 8月下旬、9月下旬 ことばのかたち工房(予定) Aug., Sep. Form of Words Workshop (temp.)	

東京文化発信プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトは、世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信、芸術文化を通じた子供たちの育成、多様な地域の文化拠点の形成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。

演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベント、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。

報道関係者からの問い合わせ先

東京文化発信プロジェクト広報事務局
 担当：富樫/大原
 電話：03-3818-2465
 FAX：03-5689-0455
 E-mail: tokyobunka@prinfo.co.jp